

令和元年度 第1回ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 令和元年5月26日（日） 10時～12時
- 開催場所 我孫子北近隣センター（並木本館）
- 参加者 34名
- 出席者 星野市長、廣瀬総務部長、渡辺企画財政部長、柏木市民生活部長
増田環境経済部長、古谷建設部長、伊藤都市部長、他管理職14名
- 懇談要旨

市民：今までは回収したプラスチックを海外に売却していたが、一部報道で、今後の買取はできないという情報がありましたが、どうお考えでしょうか。

また、豪雨等の災害時に発令する警報について、さらに細かく分けることは検討しているのでしょうか。また、災害時の避難行動要支援者避難支援について教えてください。高齢者の運転免許の自主返納の制度もあり、今後10年、20年後の我孫子市の将来では高齢者がもっと多くなっていきます。そういった中で高齢者の足となるものが、公共交通機関であるのか、それともアビバスやアイバスとなるのか、そして増便は出来ないのか。お聞きいたしたい。

環境経済部長：プラスチックにつきましては、そのような報道が出ていることは把握しておりますが、国や県から正式な通知がきていないため、現時点では今後の対応は分かりません。ただ、そのようなことになれば、一時的にプラスチックを燃やすこともあり得ます。新施設は、エネルギー回収型廃棄物処理施設ということで、燃やしたエネルギーを電気に替え、まず場内で使用し、残りを売電することを考えているため、今後の動向をみて、プラスチックの売却か、燃やすかということを検討してまいります。

市民生活部長：気象庁の警戒レベルについては、市の方にまだ詳細な情報は届いておりませんので、届き次第、周知していく予定です。地域防災計画では、市から皆様に避難していただく際の情報発信の明確化はされています。避難行動要支援者名簿につきましては、188の自治会の内、17の自治会にお配りしております。要支援者が一人もいない自治会もあれば、多くいらっしゃる自治会もあります。自治会としても把握していただきたいので、まずは、お受け取りいただきたいと思っております。

また、受領していただいている自治会には、活用状況を提供していただき、その情報を皆様にお示し出来ればと思っております。

建設部長：市では、アイバス・アビバスの他に病院と協定を結び、病院の送迎バスも高

齢者の方が利用できるようになっておりますので、そちらも併せて利用していただきたいと思ひます。免許証自主返納につきましても、タクシー乗車券をお渡しするなどで、皆様にご協力いただいております。また、今後のアビバス等のあり方については、大学の教授に意見を聞くなどして考えていく予定です。アビバス等の増便・ルート変更については、道が細い箇所等があるので簡単にはできないことをご理解いただきたいと思ひます。

市長：プラスチックは一時的に燃やすことになるかもしれませんが。アビバス等は赤字ルートを通っており、現状では、増便は難しいところではあります。

市民：避難所でのダンボールベッドの購入について、避難者一人当たりの専有面積が我孫子市では1.65㎡となっておりますが、これ以上増やすことはできないのでしょうか。また、災害時のドローン活用についてどのように考えているのか。

市民生活部長：平成30年度からダンボールベッドの購入を始めており、徐々に数量を増やしていきたいと考えていますが、ベッドの他に食料等も確保していかななくてはならないため、一度で大量に購入するのは難しい状況です。基準面積については、現施設ではこれ以上増やすことは難しいと考えています。ドローンの活用に関しては、現在業者と協議中です。

市長：施設に限られているため、災害発生時に避難所で生活を送るといふよりも、住める家にはできる限り住んでもらい、そこで必要な援助を受けてほしいと思ひます。ドローンに関しては、職員が免許を取るにより、経費が抑えられます。機械だけをリースして、災害時や農業等に活用することも考えています。

市民：利根川が決壊すると、並木地区は家の2階まで水につかります。決壊の危険があるほど大雨が降った場合には、いつ避難をすればよいのか。その際には市からできる限りの情報提供をお願いしたい。

文化交流拠点の建設については、今ある施設を利用していけばいいのではないのでしょうか。建設にあたっては、慎重に考えてほしいと思ひます。

市民生活部長：利根川の水位については、埼玉県久喜市の栗橋を基準にしています。栗橋地点で危険水位に達していた場合、我孫子に危険が及ぶのは約6時間後であるため、その間に市職員・消防団員等でできる限りの避難呼びかけを行っていく考えでいます。

市長：栗橋地点での水位に加え、野田市芽吹橋地点での水位も避難の基準としています。芽吹橋地点から我孫子地点への到達時間は約2時間を想定しており、そこでも危険性を判断していきます。ただ、利根川は国交省もかなり気を使っている河川で、堤

防の強化工事を着々と進めています。

文化交流拠点施設については、いろいろな意見があり、現在建設の有無についても検討中です。ただし、クリーンセンターに関しては、最近異常な壊れ方をしているため、建設を優先させていただきます。

市 民：文化交流拠点はすぐにでも欲しいです。

市 長：建設することになれば、多くの市民が活用できるような施設を作っていきたいと考えています。クリーンセンターは、国の復興補助金があるうちに建設したいと考えています。

市 民：我孫子市は、どの市にもあるような郷土資料館がありません。そのことからわかるように歴史教育の意識が低いと考えています。子供に郷土愛を育ませるためにも建設の必要があると考えています。マンション等との併設でも良いのではないのでしょうか。

市 長：郷土資料館の建設ではなく、文化交流拠点施設建設時にその一角を使って資料を展示することなど検討しています。また、文化交流拠点は水の館周辺を建設予定地としているため、法的にマンション等の高層の民間施設は立てることができないことになっているのでご理解いただきたいと思います。

市 民：水の館付近に文化交流拠点を建設することは、交通の便から考えると好ましくないのではないかと。台田に戸建ての住宅街が新たに建設され、そこに居住した住民の子どもが第四小学校に通学するために白山跨線人道橋を利用しています。ただ、歩道橋に行くまでの道が狭く、ガードレールも設置されていないので、対応していただきたい。

建設部長：道を管理しているのは柏土木事務所であり、そこに対し引き続き要望をあげていきます。ただ、現実的に考えると、家を建て替える際に地権者の協力を得て家をセットバックしてもらい、長期間かけて徐々に道を広くしていくしか方法がありません。

市 長：道の問題はなかなか難しい問題です。引き続き要望はあげていきたいと思います。水の館にはアイバスを開通し、市役所や駅などを通るルートで既に運航を開始しております。ただ、これ以上の増便は現時点では難しいです。

市 民：近年、我孫子市の人口が減っていることに住民としてもショックを受けています。我孫子の一番の魅力は手賀沼であり、さらにアピールをしていく必要があります。また、手賀沼の浄化やアクセスの問題を解消していく必要があると考えます。

利根川の決壊によって我孫子市の3分の2が水につかるという情報を聞いて不安を感じています。

市 長：人口減は社会減よりも死亡数が出生数を上回る自然減が深刻な問題です。市で

は若者の定住化に向けて、持ち家を持たせようという政策を行っています。

利根川の決壊により我孫子が被害を受けたのは明治のことであり、それ以降は大きな被害は受けておりません。北新田エリアは巨大な調整池の役割もしているため、昔よりはかなり対策をとっております。

市 民：手賀沼公園久寺家線の用地買収は進んでいるのでしょうか。公園坂どおりは道も狭く、危険な状態が続いています。

新クリーンセンターは同じ場所に建て替えるということでもいいのか。

市 長：用地取得は残りあと1件です。ただそれも今年度中には取得できる見込みです。その後2年間の工事期間を経て完成する予定であります。

クリーンセンターは周辺住民の同意を得て、同じ敷地に建て替えるということに決まりました。